

恐喝の新手口

最近では以下のような偽装（バーチャル）誘拐と組み合わせる新たな手口が報告されていますので参考にしてください。

- 犯罪者たちは無差別に家庭の電話に架電を行う。その際に犯罪組織のメンバーだと名乗る。相手が青少年（もしくは精神的・感情的に弱い人間）だと知ると、新たな恐喝の手口を開始する。
- 犯罪者たちは、家屋内で使う携帯電話の通話を探知・登録するシステムを備えている（虚偽）と述べ、被害者に対して携帯電話の番号を教えるよう求める。
- 犯罪者たちは、通話を終えた後も、被害者の所有する携帯電話に絶え間ない架電を行う。被害者もしくはその家族に危害を加えると脅して、車両、金品、職業、家族の携帯電話番号等、さらに被害者の経済状況に関する状況入手する。精神的・感情的に強力なプレッシャーを加え、被害者に家屋の扉を開けた状態で家から逃げ出すように強制する。被害者に対して携帯電話の充電が切れることのないよう、また通話が途切れることのないよう充電器を持って行くよう要請する。
- 被害者をホテルもしくはショッピングセンターに移動させ、その内部もしくは周辺に留まるよう命じる。終始、犯罪者たちは被害者と電話で通話している。
- 家族に連絡をして、被害者を誘拐していることを告げる。犯罪者たちが被害者と通話を行っているため、被害者は家族からの架電に答えることができない。家族が家屋に着くと、ドアが開いている。誰かが入り込んで人を誘拐した様に見える。
- 犯罪者たちは、被害者から得た情報で家族に対して実際に被害者が誘拐されているように信じ込ませる。
- 家族に対する圧力も強くかける。拷問や指を切断している等脅迫する。
- 恐喝に信憑性を与える決定的なポイントは、家族と被害者を直接話させることである。この手口は次の方法で実施する。
 - 1 犯罪者たちは携帯電話を通じて被害者と常に連絡を取っている。

2 犯罪者たちは被害者の家族に連絡を取る。

3 被害者の家族から被害者が生きているという証拠を求められると、犯罪者たちは3者間通話を開始する。

- 嘘がばれないよう、また、家族に身代金を払わせるため事前に被害者には何を話すか指示をする。
- 被害者に対しては監視されていること、また、被害者がいる場所の従業員は犯罪グループと共犯であると述べて被害者を常時脅迫しておく。
- 犯罪者たちは、一定の金額をコンビニエンスストアの口座もしくは口座開設が簡単で現金が扱いやすい銀行以外の金融機関の口座に振り込むよう家族に指示する。さらに家族に対して犯罪者たちの携帯電話に課金するよう要求する。
- 新たな手口のポイント。
 - ・実際の誘拐に見せかけるため、ドアを開けた状態で被害者を家からおびき出す。
 - ・被害者と家族を直接話させる。
 - ・家族が身代金を支払っても、犯罪者たちはさらに金をとろうとする。
 - ・被害者らは手当たり次第選ばれる。
 - ・恐喝が続くのは数時間、最大6日間ほど続くこともある。
 - ・犯罪者たちはテクノロジーを使い、家族と被害者の電話回線を直接リンクさせ通話させることもある。
 - ・他の手法の電話恐喝と同様、電話はメキシコ国内の様々な場所から発信される。

対処方法

- 家族に犯罪者たちの手口を周知させること。
- 家族各自の居場所に関して連絡を密にすること。
- 自宅にナンバーディスプレイを設置すること。もし知らない番号から電話がかかってきた場合は、用心すること。
- 電話や郵便、インターネット等で個人情報をもやみに流さないこと。
- 以下の電話番号を常に最新の状態にしておくこと。
 - 家族
 - 管轄警察

○ 緊急電話

- もし可能なら,回線を使用中でもメッセージの送受信が可能で,着信を待ち受け状態にでき,GPSを備えた携帯電話を使用すること。
- 可能な限り平静を保つこと。
- 恐喝の電話に対しては,電話を切ること。
- 即時,誘拐被害に遭っているとされる家族の居場所を確かめること。
- 居場所を突き止めることが不可能な場合,手助けしてくれる信頼できる者や他の家族を探すこと。決して単独では行動しないこと。
- その後の電話に応答しないこと。
- どのような場合においても,知らない相手に個人データを与えないこと。
- 恐喝が本物だという確信が得られない限り,自宅から離れないこと。

以上